

お寺でクリスマス!?

仏像に見守られリース制作

薬師寺



県重文・薬師如来像が見守る中でクリスマスイベントが行われた

かった時代、当寺も社交の場だったと聞いていますが、時代の変化とともに閉鎖的な部分が多くなってきたように思います」と現在46歳の石川住職。「コロナ禍で地域行事などが見送られたり人と人との接点が希薄になった今、つながりを取り戻すために寺として何かできないかと考え、今回のイベントを企画しました」と話す。

当日、参加者は館林市のフラワーアーティスト・後閑静さんの指導を受け、県重要文化財の薬師如来像に見守られながら一つでクリスマスから正月まで楽しめる「クリスマス」しめる「クリスマス

リース&しめ縄づくりに挑戦。子どもたちも保護者に手伝ってもらいながら真剣に手を動かして完成させると「早く飾ろう」と笑顔いっぱい。このほか、

ドローンを使って足利織姫神社計測

東京理科大学大生

東京理科大学の大学院生らが昨年11月17日、ドローンやレーザーキャナーを使用して足利織姫神社本殿の3次元点群データ計測の演習を行った。演習で得られた同点群データと3Dモデルは同神社奉賛会と足利市に寄贈される予定だ。

旧のために役立つことも、データも文化財を身近に楽しめるツールとなることからVRコンテンツの制作が進められているという。実習に参加したのは、柳沼秀樹准教授が指導する防災リスク管理コースの大学院生と同大学生、今回の演習に協力した国土交通省宇都宮国道事務所若手職員。



足利織姫神社で実習を行う東京理科大学大生ら

足利市川崎町の薬師寺(石川将隆住職)は、昨年12月18日、同寺初のワークショップもあり、クリスマス

「お寺でクリスマス&しめ縄づくり」を開催。地域住民やバブルンショーなど、市民や市外からの参加者で楽しませた。「娯楽があまりない

足利の近代化遺産への理解深めて

考える会が講演会で情報発信



活用を考える

足利の近代化遺産を市民に情報発信を行う「考える会(岩本秀雄会長)が昨年11月26日、再認識してもらう」と、

開会行事では若本会長が「近代化遺産への関心が高まり、足利のまちづくりに結びつけられる方法を皆さんと一緒に考え、活動していきたい」とあいさつした。また、考える会

当日は栃木県測量設計業協会メンバーの全面協力を得て、地上型レーザーキャナーの操作方法などを体験。